

説 教

Open Church 礼拝 北浜チャーチ

2022年1月16日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「幸福へのターニングポイント」

—祝福の道—

テキスト：ヨハネの福音書14章6節

はじめに

- ・今日は北浜チャーチの「オープン・チャーチ礼拝」日です。
皆様のご参加を歓迎します。ご一緒に礼拝ができる幸いを嬉しく思います。
- ・さて、皆さんは一生懸命働いておられると思います。ある方は、ビジネスの最前線で活躍しておられるでしょう。ある方は仕事の責任を担い、目標に向かって一生懸命頑張っておられるでしょう。また、ある方は家庭において育児で多忙かも知れません。
- ・一般的に、日本人は大変よく働くと言われますね。確かに、私もそう思います。真面目によく働くことは、それは仕事の結果を生みプラス面があります。しかしながら、マイナス面も無いわけではありません。
- ・フランスでは、バカンス（休暇）に行くために仕事をすると言います。しかし日本では、バカンスに行くために働いている人は、本当に少ないと思います。私の住んでいたドイツでも、休暇は、必須で休みを取らなければならなかったことを覚えております。パン屋さんや肉屋さんが、3週間、4週間と長い期間店を締めていたことを覚えています。
- ・しかし日本では、仕事が趣味と言われるぐらい、仕事と生活が密着しています。いったい何のために働いているのでしょうか？
仕事人の特徴は、まず「ゆとり」が少なく「過労」であることです。
身体的な疲労もありますが、なによりも「心の疲労」があります。つまり生活に余裕がなくなるのです。その結果、疲労が重なりマイナスの「ストレス」という負担がかかります。
- ・現代社会、物質的には本当に豊かな時代となりました。しかし心にその豊かさが反映されないため、仕事に適応できなくなるという現象が現れてきました。一説によれば、人口の3～5%が「うつ症状」を抱えていると言われます。
- ・では、どうすれば良いのでしょうか？
皆さん、日本のような社会全体が忙しく動く社会で大切なことは、能率の良い生き方をすることです。能率の良い生き方とは、一つに過去を引きずらないこ

とです。もし過去から離れられないならば、「ストレス」となります。

- 私たちの人生は一度しかありません。一度しかない貴重な人生を、もしストレスをかかえて過ごすならば、なんと虚しいことではありませんか。神が存在されるならば、神はそのような人生を過ごすことを願っておられるでしょうか。いいえ、そうではありません。

- 最も大切なことは、私たちが幸福な人生を過ごすことです。そして真のいのちを得て神の国に入ることです。

聖書は天地をお造りくださった神がおられると、教えています。創造神の存在は被造物によって、明らかであると明言しています。

1:20 神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。 ローマ

- 今日、私たちは私たちの大切な人生について考えてみましょう。

大切なポイント

1. オンリー・ワンの人生

1) 一度の人生

- 人生は一度しかありませんから、だれにとっても貴重なものです。では、あなたの人生は、どこに向かって歩いておられますか？ 今、あなたが進む道は大丈夫でしょうか。次のような話を聞いたことがあります。

『例 話』

- あるユダヤの賢者が弟子たちに次のような質問をしました。「もし旅人が、旅の途中で道を見失ったならば、どうしたらよいか？」
- 弟子の一人はこう答えました。「先生！ それは簡単ですよ、地図があれば、道を探すことができますよ。」
- 別の弟子が、言いました。「もし砂漠の中にいたら、道路はないでしょう。」と。しかし「コンパス（磁石）があれば方向を定めることができる。そしてその方向に向かって進むことができますよ。」と。
- するともう一人別の弟子が現れて言いました。「地図や磁石がない場合だってあるでしょう。しかし、天体の動きを、空の星の動きを読めば、方角が分かるものだ。」と。（今の時代であれば、携帯電話という答えが出るかも知れませんね）
- しかし、その回答も先生の首を縦に「うなずかせる」ものではありませんでした。そこで先生は、ゆっくりと口を開いて、話し始めました。「地図、磁石、星など、それぞれ面白いアイディアであると思う。しかし、そ

の場しのぎの回答であろう。最もよい解決方法は、もう一度、その出発点に立ち返ることだ。そして方向を見極めることである。何のために旅立ったのか。何を求めて、どこに向かおうとしていたのか。出発の原点に立ち返るときに、自ずとその道は見えてくるものだ。」と。

- 皆さん。私たちの出発の原点はどこでしょうか。
私たちは何のために人生を旅しているのでしょうか。何を求めて、どこに向かって人生を歩んでいるのでしょうか。

2) 聖書は道を示す

- 聖書は、人生のコンパス（道標）のようです。旧約聖書、詩篇の作者は、こう歌いました。詩篇 1 9 篇
119:105 あなたのみことばは私の足のともしび私の道の光です。
神のみことばは、私の道を照らす光であると歌いました。
- そして、イエス・キリストは「わたしが道です。」(ヨハネ 14:6)と言われました。少し考えてください。誰でもが道を示すことができるわけではありません。イエスは大胆に「わたしが道です。」と断言されました。
- 皆さんは、今生きる道を求めておられるかも知れません。そして自分の能力を発揮し、力を注いで幸福への道を求めておられるでしょう。しかし、その道は確かでしょうか。神はあなたの人生に、道を備えておられます。神はあなたを造られた目的をお持ちです。そしてあなたを祝福したいと願っておられます。
- ドイツ語に”Beruf”（ベルーフ）という言葉がありますが、それは一般的に職業と訳されます。この言葉は動詞 “rufen”（ルーフェン：呼ぶ）に接頭語”be”がついて、「呼び出す」という意味です。つまり神が呼び出してくださる職業のことで、それは「天職」と言えるものです。ドイツ語ではそのように表現します。そこには、あなたに与えられた仕事があります。
- 皆さん。いろいろな職業（教師、医師、弁護士、会計士、商売人、接待業、旅行業、料理人、その他等）があります。いろいろな芸術家（音楽家、美術家、写真家、映画監督、俳優、陶器家、その他等）、もおられます。そして皆一律ではなく、実に多様性に富んでいます。神は一人一人に、賜物（才能）を与えておられます。職業は神が与えられた道でありましょう。
- ところで先ほど、原点復帰の話をしてきました。出発点に戻ることですね。それは神が私たちをお造りくださったというスタート（原点）です。自分のスタートを知ることは有意義なことです。なぜなら「オンリーワンの人生」であるからです。本当の意味で自分のスタートを知るには、私たちをお造りくださったお方（神）を知ることから始まります。それが次のポイントです。

2. 幸福へのターニング・ポイント

1) 立ち止まること

- ・忙しい生活をする人にとって大切なことは、「立ち止まること」です。忙しくて立ち止まれないというのではなく、逆です。それを具体的にいえば、次の3点です。
 - ① 自分に返る時間を持つ
 - ② 自分に返る場所を持つ
 - ③ 自分を見るチャンスを持つ
- ・これら3点を持つ人は「過去を引きずらない人です。」これは大切です！皆さん！自分の時間、場所、自分を見るチャンスである「**自分の城**」を持つ人は幸いです。そこは楽しい所、疲れを癒してくれる所です。イスラエルの王であったダビデは、神と歩む人生を次のように歌いました。

「主（神）は私を緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われます。主（神）は私のたましいを生き返らせ、御名のゆえに、私を義の道に導かれます。」（詩篇 23:2, 3）と歌いました。「**自分の城**」を持っていました。
- ・ダビデ王は「**自分の城**」を持っていました。そこは楽しい所、自分を癒してくれる所です。いかがでしょうか。あなたも一度、立ち止まってみませんか。そして①自分に返る時間、②自分に返る場所、③自分を見るチャンス。この3点を自分のものとする、つまり「**自分の城**」を持っておられますか。
- ・ところが、「**自分の城**」を持たない人はいます。ただ忙しく働いている方、心痛め沈んでいる人です。その時間は止まっています。体は現在に生きていますが、心は過去と現在の時間に捕らわれているからです。ですから、「あの時に、あーしたら良かったのに」と、いつまでも言い続けてしまいます。そこで大切なことは、このような不幸な生活リズムから抜け出して、「今を生きる！」と心で決めることです。
- ・たとえば「人生でこれを学んだ。」とか、「人間関係でこれを学んだ」。だから「私はこう生きよう」と心に決めることです。
- ・毎日、日記をつけている人がいます。とても良いことです。それは単に過去を記録しているだけではなく、過去を整理しているからです。過去を振り返り、物事を整理することができる人は、幸いな人です。
- ・物事を整理するには、基準が必要です。基準によって、必要なもの不要なものを区別します。私たちの人生で何が必要なことか、何が不要なことか。その整理する基準は聖書にあります。
- ・聖書は私たちが生きるために、何が大切で、何がそうでないかを提示しています。あなたにとって、何が大切なことでしょうか。

- ① 最も大切なもの ➡ なくならない「いのち」
- ② 大切でないもの ➡ 消滅するもの

聖書のことば：マタイの福音書 24 章

24:35 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。

世の中の多くのものは移り変わります。しかし聖書のことばは決して変わりません。何と力強いことばではありません。神のことば、真理であるからです。

2) 永遠のいのちを得る道

- 聖書の中には、永遠のいのちについて書かれています。
その前に知らなければならないことは、私たちが地上で生きている時に持っている「命」と、死後にもつ「いのち」があることです。聖書は、人の魂は地上生活を終えた後、善であれ悪であれ、必ず神の裁きの座に着くと教えています。つまり、死後の「いのち」があると語っています。
- それでは、聖書に登場するストーリーを読んでみましょう。
今から約 2 千年前、場所は現在のイスラエルです。一人の人が、イエスに駆け寄り、ひざまずいて尋ねました。マルコの福音書 10 章
10:17 イエスが道に出て行かれると、一人の人が駆け寄り、御前にひざまずいて尋ねた。「良い先生。永遠のいのちを受け継ぐためには、何をしたらよいでしょうか。」マルコ
- するとイエスは言われました。
10:18 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『良い』と言うのですか。良い方は神おひとりのほか、だれもいません。
10:19 戒めはあなたも知っているはずですよ。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。だまし取ってはならない。あなたの父と母を敬え。』」
- その人はイエスに言いました。「先生、私は少年のころから、それらすべてを守ってきました。」イエスはさらに言われました。
10:21 イエスは彼を見つめ、いつくしんで言われた。「あなたに欠けていることが一つあります。帰って、あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」
10:22 すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。多くの財産を持っていたからである。

- ・このストーリーは実話であったと思われます。聖書の別の箇所では、一人の人は、金持ちの青年と記録されています。彼はまだ年若くして事業に成功した、今でいう有能な青年実業家であったでしょう。それに道徳的にも優れた人であったでしょう。彼は少年のころから、ユダヤ人が最も大切にする律法を守っていると、断言できたからでした。申し分がない人でした。
- ・それでは、なぜ彼は顔を曇らせて、悲しみながら、イエスのもとから去っていったのでしょうか。イエスは彼に「あなたには欠けたことが一つあります。」(10:21)と言われました。聖書は、「彼は多くの財産を持っていた。」(10:22)と記録しています。財産が彼の決心を妨げていました。
- ・皆さん！ ここで、私たちは何を学ぶことができるのでしょうか？ それは、イエス・キリストは青年に次の2点を求められたことです。
 - ① 整理をきなさい
財産を売り払い、貧者に施しをきなさい。その上で、
 - ② わたしに従って来なさい
⇒永遠のいのちを得る道（天の御国）である。
- ・私たちは、この青年実業家ではありません。しかし、イエスは今日私たちにも同じように、尋ねておられるのではないのでしょうか？「あなたには欠けたことが一つあります。」と。
 - ① 整理をきなさい
 - ② わたしに従って来なさい。
- ・皆さん。なぜ、イエスは青年にこのように求められたと思いますか。

⇒彼は自分の力で「永遠のいのち」を得ようと考えたからです。
(彼はイエスの前でひざまずいて尋ね、真剣でした)

自力で「永遠のいのち」を得ようと考えた彼に、イエスは自力で進むように説かれました。しかし、彼はできませんでした（私たちもそうです）。
- ・皆さん！ 幸いなことは、救われるとは彼に求められたような「行い」によるのではないことです（イエスは行いを言う彼に、行いを求められただけでした）。自力という行いよっては、だれも「永遠のいのち」を自分のものにはできません。幸いなことは、イエスをキリストと信じるならば、永遠のいのちを得ることです。 **ヨハネの福音書3章**

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。
- ・イエス・キリストは十字架にかかり、私たちの出来ない弱さを担ってくださいました。ですから、イエス・キリストを信じるだけで救われる道を開いてくだ

さったのです。 マタイの福音書 11章

11:28 すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

ま と め

主 題：「幸福へのターニングポイント」

—祝福の道—

・イエス・キリストは言われました。

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。
ヨハネ

・私たちが幸福の道に入る、そのターニングポイントはどこにあるでしょうか。覚えてください。自力で神の国に入ることは不可能です。しかし神は愛であるお方です。自力で救われない私たちのために、神はイエス・キリストを遣わしてくださいました。そしてイエス・キリストによって、神の国に入る道を整えてくださいました。

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

・十字架にかけられたイエス・キリストを信じる者に、神は恵み（贈物）として、神の国に入る道を開いてくださいました。それが真の祝福の道です。いかがでしょうか。あなたも、イエス・キリストを信じ歩まれませんか？

*God bless you!